

**令和7年度 第3回 東京都医療的ケア児支援地域協議会
議事要旨**

1 日 時 令和8年3月27日（金曜日）午後6時から午後7時30分まで

2 会 場 オンライン開催

3 出席者 前田委員（会長）、富田委員（副会長）、吉澤委員、岩崎委員、井上委員、熊田委員、等々力委員、山下委員、早野委員、折井委員、島添委員、今井委員、近藤委員
（欠席）首里委員、折井委員、新谷委員

4 議事概要（委員からの主な御意見等）

**（1）区市町村調査・医療的ケア児等コーディネーター調査結果報告
事務局から資料説明**

（岩崎委員、富田副会長から多摩地域について、医療的ケア児支援センターの視点で補足）

- ・医療的ケア児支援センターに対する期待として、地域資源に関する情報提供が求められている。地域の状況はめまぐるしく変わるので、調査や確認をして把握する必要性を感じる。
- ・今回の結果を今後の地域支援、後方支援に役立てていきたい。
- ・コーディネーターフォローアップ研修に関する回答結果を見ると、短くても講義の時間を設けるとよいのかもしれない。

（山下委員から区部について、医療的ケア児支援センターの視点で補足）

- ・コーディネーター調査の結果でも、活動に際し知識・スキルに不安があるという意見がある。また横のつながりが欲しいという声も受けており、区部ではコーディネーターの連絡会を開き、横の繋がりをもちながらスキルアップできる場づくりの活動を始めている。

（主な意見等）

- ・区市町村調査の結果において、実態把握の仕方に関する好事例について、都から呼びかけをお願いしたい。
- ・自治体や関係機関などが利用できるような、手引きやガイドライン等が作成されるとよい。
- ・医療的ケア児等コーディネーターに期待することで、地域資源に関する情報提供とあるが、地域の情報はどのようにすると把握できるものか
→（岩崎委員）日頃のご相談の中での利用者の声や、支援者間のネットワークのほか、直接事業者と連絡をとり情報収集することもある。

(2) 令和7年度医療的ケア児支援関連事業の実施状況

事務局から資料説明

(主な意見等)

- ・研修事業が多数あり、今後見直しやプログラム内容の再検討を進めていただきたい。
- ・コーディネーター養成数のうち、継続的に活動できている人は一部にとどまるため、実際に活動されている方を支援してほしい。
- ・ショートステイ開設後の稼働状況について今後情報提供いただきたい。
- ・障害児通所事業所でリハビリのニーズがあっても職員の雇用が難しいので、地域の訪問看護ステーションと連携できると、双方にとってよい効果がある。
- ・特に放課後等デイサービスは時間が短く、児童の体調の見極めに難しさがあるため、看護師向け研修でもその点を学べるとよい。

(前田会長から補足)

- ・コーディネーター間で医療に対する苦手感があり、払拭のためのフォローが今後の課題。

(富田副会長から補足)

- ・コーディネーターの養成を今後も続ける必要がある理由として、事業所の加算を目的にした参加者が残念ながらいる。対策として自治体の推薦制にしたが、現在も完全に払拭されたわけではない。また、行政職員の場合数年間で異動があり、転入者を養成する必要があるほか、事業所ではコーディネーターに対する報酬がないため、人材の流出に繋がった。現在は継続して取り組む方が増えてきたので、横の繋がりがづくりや情報共有、困ったときの後方支援が重要。

(3) 医療的ケア児支援区市町村担当者連絡会の実施報告

事務局から資料説明

(山下委員、等々力委員から区部の連絡会について補足)

- ・5ブロックに分かれて行い、その後自主的に取り組むブロックもあり、課題はあるが初めの一步として良い会だった。引き続きコーディネーターのバックアップに取り組みたい。
- ・行政のコーディネーターだけでなく、民間のコーディネーターの繋がりを作り、サポートできる体制を目指して実施した。各ブロックで自主的に運営していただく形だが、サポートしながら支援力を高めていけたら。

(岩崎委員、富田副会長から多摩の連絡会について補足)

- ・多摩は、3月という多忙な時期での開催だったが、多くの方に参加していただいた。困りごとやほかの

地域を知るといふことで、有意義に話が進んだ。民間の方も含めてコーディネーターを育てていくのが大前提だが、多摩地域はなかなかまだ難しいという状況がある。まずは行政のコーディネーターや、保育園について課題がたくさんあるので、その辺も知っていただける良い機会だった。

・医療的ケア児支援センターの職員が、企画、準備、声かけまで行い、大きな会になった。多摩地域は地域の差が大きく、隣の自治体でも、保育園の入園基準等にも違いがあり、顔を合わせて話し、お互いの実態を知り合うことは刺激になってよかった。

(4) 令和8年度医療的ケア児支援関連事業の説明

事務局から資料説明

(主な意見等)

- ・医療的ケア児訪問看護ステーション体制整備事業が行われているが、今後看護師だけでなく、リハビリ職員に対する研修も検討いただきたい。
- ・看護師確保対策は喫緊の課題。医療的ケア児支援や障害児看護に興味をもってもらう取組が必要。
- ・私立幼稚園の医療的ケア看護職員配置事業により、今後幼稚園での取組が広がり、医療的ケア児の選択肢が広がることを期待できる。
- ・幼稚園は文科省、保育園はこども家庭庁だったので、全国で見ても幼稚園の対応は遅れていた。東京都が率先して取り組むのは評価すべき。
- ・在宅レスパイトについて、学校付添を対象にしている自治体の一部ある。都でも認められれば、学校の付き添い短縮事業がより効果的になる。

(会長から情報提供)

- ・医療的ケア児支援法の改正の動向について情報提供。